

目的／ゴール

物質・エネルギー・情報の輸送すべてにかかわる流体現象を安全安心かつ効率的な社会に応用する技術を計測制御の観点から展開します

Ubiquitous fluid phenomena contributing to sustainable life, society, and environment

背景／問題設定

流体[を/で]ハンドリングすることは、ナノ領域から宇宙まで、日常生活や工場等で利用されており、あらたな技術展開が求められています。さまざまなスケールと形態の流体現象を計測制御する専門技術者集団として社会に貢献しています

Professional fluid engineers of measurement and control devoting to the society

戦略／方法／注目技術領域

流体工学を基盤に、可視化・シミュレーション技術を発展させることで、ソリューションやあらたなシーズを、非常流量標準、MEMSセンサ・アクチュエータ、介護機器、生体応用などの技術分野と統合します。

Flow visualization & simulation based on fluid dynamics promotes new solution and seeds.

活動計画／予定成果

国際シンポジウムFLUCOMEとSICE ANNUAL CONFERENCE でのOS:
FLUCOME-J がメインの活動です

We started and carry on the international symposium FLUCOME

- 1) 流れ場の仮想計測と制御(東北大・早瀬研)
- 2) 新方式電磁流量計(山武、慶応大・本多研)
- 3) パワーアシスト椅子(横浜国大・眞田研)
- 4) ヒトの材質識別能力をもつ人工指(明治大・小山研)
- 5) 腹腔鏡手術用流体電機統合システム(東工大・香川/川嶋研)
- 6) 円形シフト法による3次元流速場計測(宮崎大・川末研)

部会主査: 慶応大学 本多 敏 (honda@appi.keio.ac.jp)

メンバー: 香川利春, 山本圭治郎, 眞田真志, 小山紀, 川嶋健嗣,
石橋雅裕, 千村暢孝, ...

